

四半期報告書

(第20期第3四半期)

自 平成21年1月1日

至 平成21年3月31日

株式会社ビーアイジーグループ

目 次

表 紙	頁
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
3 関係会社の状況	1
4 従業員の状況	2
第2 事業の状況	
1 生産、仕入及び販売の状況	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態及び経営成績の分析	3
第3 設備の状況	4
第4 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) ライツプランの内容	8
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	8
(5) 大株主の状況	8
(6) 議決権の状況	8
2 株価の推移	9
3 役員の状況	9
第5 経理の状況	10
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
2 その他	20
第二部 提出会社の保証会社等の情報	20

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年5月15日
【四半期会計期間】	第20期第3四半期（自平成21年1月1日至平成21年3月31日）
【会社名】	株式会社ビーアイジーグループ
【英訳名】	B I G G R O U P C o . , L t d
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 青山 洋一
【本店の所在の場所】	東京都港区南青山三丁目3番3号
【電話番号】	03(5411)7222
【事務連絡者氏名】	財務課長 田邊 芳彦
【最寄りの連絡場所】	東京都港区南青山三丁目3番3号
【電話番号】	03(5411)7222
【事務連絡者氏名】	財務課長 田邊 芳彦
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第3四半期連結 累計期間	第20期 第3四半期連結 会計期間	第19期
会計期間	自平成20年7月1日 至平成21年3月31日	自平成21年1月1日 至平成21年3月31日	自平成19年7月1日 至平成20年6月30日
売上高（千円）	1,931,571	614,771	2,990,847
経常利益又は経常損失（△）（千円）	△108,650	△30,463	△348,241
四半期（当期）純利益又は 四半期（当期）純損失（△）（千円）	△236,593	△65,026	△637,209
純資産額（千円）	—	2,000,614	2,231,511
総資産額（千円）	—	2,794,033	3,213,464
1株当たり純資産額（円）	—	17,173.58	19,286.57
1株当たり四半期（当期）純利益又は 1株当たり四半期（当期）純損失 （△）（円）	△2,087.81	△573.82	△5,105.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	—	69.6	68.0
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	△87,250	—	△274,473
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	△28,865	—	159,830
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	△97,500	—	△1,254,844
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（千円）	—	415,402	629,505
従業員数（人）	—	165	181

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第19期、第20期第3四半期連結累計期間及び第20期第3四半期連結会計期間においては、四半期（当期）純損失を計上しているため、潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額は記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年3月31日現在

従業員数（人）	165 (16)
---------	----------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第3四半期会計期間の平均人員を（ ）内に外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成21年3月31日現在

従業員数（人）	1 (0)
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第3四半期会計期間の平均人員を（ ）内に外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、仕入及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当する事項はありません。

(2) 仕入実績

当第3四半期連結会計期間における仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日) (千円)
美容室運営事業	26,707
I T アパレルブランド事業	84,754
合計	111,461

(注) 1. 金額は仕入価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日) (千円)
美容室運営事業	448,829
I T アパレルブランド事業	165,942
合計	614,771

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、世界的な信用収縮と金融危機が本格化したことで、円高進行による貿易収支の赤字や大幅な株価の下落となり、企業におきましては設備投資の抑制や生産ラインをストップするなど収益体質の改善策を打ち立てるものの、新卒者の内定取消しなど雇用コスト調整による個人消費の減退などの進行が経営環境の悪循環を招く事態となっております。

このような経済環境のもと、当社グループがテーマとしている「ITとファッション&ビューティー」の「美容室運営事業」と「ITアパレルブランド事業」では、ブランドのコンセプト、ポジションにおける顧客に訴求する為の効率的な広告宣伝をすることで、新規顧客の獲得及びリピート率の向上を図るとともに、引き続き継続的かつ高い成長性・収益性を確保するための新商品の開発・既存商品及びサービスの品質向上や人材育成、業務フローの効率化など経営スキームの確立に重点を置いてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の連結業績は、売上高614,771千円、営業損失24,031千円、経常損失30,463千円、四半期純損失65,026千円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は下記のとおりであります。

(美容室運営事業)

美容室経営事業につきましては、新規顧客の獲得や既存顧客の来店サイクルの向上に苦戦を強いられ、既存店舗及び新規店舗の売上が伸び悩みましたが、売上原価、販売費及び一般管理費の見直しと削減、サービスの向上、業務フローの効率化など経営の合理化を推し進めてまいりました。以上の結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は448,829千円、営業利益は10,783千円となりました。

(ITアパレルブランド事業)

ITアパレルブランド事業につきましては、個人消費の減退の影響を受け、リアルショップにおきましては春物商戦は当初見込んでいた売上高を下回ったものの、平成21年3月7日開催の東京ガールズコレクションに出展した効果を活かした卸取引先の新規開拓や不採算店舗の閉鎖など効率的な広告宣伝と収益体制の整備に努めてまいりました。以上の結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は165,942千円、営業利益16,547千円となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第2四半期連結会計期間末に比べ41,126千円の減少となった結果、415,402千円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は35,551千円となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失41,006千円、のれん償却額34,613千円、売上債権の増加額28,125千円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、獲得した資金は14,385千円となりました。これは主に貸付金の回収による収入2,005千円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は20,000千円となりました。これは長期借入金の返済による支出20,000千円によるものであります。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

該当する事項はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

特に記載すべき重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000
計	400,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成21年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成21年5月15日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	133,064	133,064	ジャスダック証券取引所	単元株式数は1株
計	133,064	133,064	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

当社は旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき新株予約権を発行しております。

株式会社ビーアイジーグループ 株主総会の特別決議日（平成17年9月26日）

	第3四半期会計期間末現在 (平成21年3月31日)
新株予約権の数	525個
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1株
新株予約権の目的となる株式の数	525株
新株予約権の行使時の払込金額	76,265円
新株予約権の行使期間	平成19年10月1日～ 平成21年9月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 76,265円 資本組入額 38,133円
新株予約権の行使の条件	(1) 新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時においても当社または当社子会社の取締役、監査役及び従業員であることを要します。ただし、「新株予約権割当契約」に定める一定の要件を充足した場合に限り、取締役、監査役及び従業員たる地位を失った後も引続き権利を行使できます。 (2) その他の権利行使に関する細目については、平成17年9月26日開催の定時株主総会及びその後の取締役会に基づき、当社と対象取締役、監査役及び従業員との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによります。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入その他の処分は認めません。ただし、死亡による相続はこれを認めます。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 新株予約権の目的となる株式の数は、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により調整されるものとします。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において、目的となる株式の数を行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われるものとし、調整の結果生じる1株未満の株式については、これを切り捨てるものとします。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

また、当社が他社と合併を行い本件新株予約権が継承される場合、または、当社が会社分割を行い本件新株予約権が継承される場合、当社は必要と認める株式数の調整を行います。

2. 当社が時価を下回る価格で新株を発行または自己株式の処分を行う場合は（新株予約権の行使によるものを除く）、次の算式により払込価格を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後払込価格} = \text{調整前払込価格} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たりの株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行による増加株式数}}$$

また、新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により払込価格の調整をし、調整により生じる1円未満は切り上げます。

$$\text{調整後払込価格} = \text{調整前払込価格} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

株式会社ビーアイジーグループ 株主総会の特別決議日（平成18年9月28日）

	第3四半期会計期間末現在 (平成21年3月31日)
新株予約権の数	490個
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1株
新株予約権の目的となる株式の数	490株
新株予約権の行使時の払込金額	36,100円
新株予約権の行使期間	平成20年10月1日～ 平成22年9月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 36,100円 資本組入額 18,050円
新株予約権の行使の条件	(1) 新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時においても当社または当社子会社の取締役、監査役及び従業員であることを要します。ただし、「新株予約権割当契約」に定める一定の要件を充足した場合に限り、取締役、監査役及び従業員たる地位を失った後も引続き権利を行使できます。 (2) その他の権利行使に関する細目については、平成18年9月28日開催の定時株主総会及びその後の取締役会に基づき、当社と対象取締役、監査役及び従業員との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによります。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入その他の処分は認めません。ただし、死亡による相続はこれを認めます。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 新株予約権の目的となる株式の数は、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により調整されるものとします。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において、目的となる株式の数を行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われるものとし、調整の結果生じる1株未満の株式については、これを切り捨てるものとします。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

また、当社が他社と合併を行い本件新株予約権が継承される場合、または、当社が会社分割を行い本件新株予約権が継承される場合、当社は必要と認める株式数の調整を行います。

2. 当社が時価を下回る価格で新株を発行または自己株式の処分を行う場合は（新株予約権の行使によるものを除く）、次の算式により払込価格を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後払込価格} = \text{調整前払込価格} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たりの株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行による増加株式数}}$$

また、新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により払込価格の調整をし、調整により生じる1円未満は切り上げます。

$$\text{調整後払込価格} = \text{調整前払込価格} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

株式会社ビーアイジーグループ 株主総会の特別決議日（平成19年9月27日）

	第3四半期会計期間末現在 (平成21年3月31日)
新株予約権の数	490個
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1株
新株予約権の目的となる株式の数	490株
新株予約権の行使時の払込金額	20,143円
新株予約権の行使期間	平成21年10月1日～ 平成23年9月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 20,143円 資本組入額 10,072円
新株予約権の行使の条件	(1) 新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時においても当社または当社子会社の取締役、監査役及び従業員であることを要します。ただし、「新株予約権割当契約」に定める一定の要件を充足した場合に限り、取締役、監査役及び従業員たる地位を失った後も引続き権利を行使できます。 (2) その他の権利行使に関する細目については、平成19年9月27日開催の定時株主総会及びその後の取締役会に基づき、当社と対象取締役、監査役及び従業員との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによります。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入その他の処分は認めません。ただし、死亡による相続はこれを認めます。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 新株予約権の目的となる株式の数は、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により調整されるものとします。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において、目的となる株式の数を行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われるものとし、調整の結果生じる1株未満の株式については、これを切り捨てるものとします。

調整後株式数＝調整前株式数×分割・併合の比率

また、当社が他社と合併を行い本件新株予約権が継承される場合、または、当社が会社分割を行い本件新株予約権が継承される場合、当社は必要と認める株式数の調整を行います。

2. 当社が時価を下回る価格で新株を発行または自己株式の処分を行う場合は（新株予約権の行使によるものを除く）、次の算式により払込価格を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後払込価格} = \text{調整前払込価格} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たりの株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行による増加株式数}}$$

また、新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により払込価格の調整をし、調整により生じる1円未満は切り上げます。

$$\text{調整後払込価格} = \text{調整前払込価格} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

- (3) 【ライツプランの内容】
該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
平成21年1月1日～ 平成21年3月31日	—	133,064	—	2,499,447	—	—

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成20年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成21年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 19,743	—	単元株式数1株
完全議決権株式 (その他)	普通株式113,321	113,321	同上 (注)
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	133,064	—	—
総株主の議決権	—	113,321	—

(注) 上記「完全議決権株式 (その他)」の「株式数 (株)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が84株含まれております。また、「議決権の数 (個)」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数84個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成21年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社ビーアイ ジーグループ	東京都港区南青山 三丁目3番3号	19,743	—	19,743	14.84
計	—	19,743	—	19,743	14.84

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	3月
最高（円）	12,000	9,620	9,700	9,190	7,190	7,600	6,300	6,500	5,590
最低（円）	9,480	7,600	8,000	5,600	6,500	5,900	4,520	4,090	4,800

（注） 最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

3【役員の状態】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の状態はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	415,402	629,505
売掛金	229,785	179,205
商品	50,673	107,763
その他	75,042	100,632
貸倒引当金	△3,826	△1,010
流動資産合計	767,076	1,016,097
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	461,632	407,924
減価償却累計額	△276,975	△252,488
建物及び構築物（純額）	184,657	155,435
その他	96,297	97,525
減価償却累計額	△57,745	△44,719
その他（純額）	38,551	52,806
有形固定資産合計	223,209	208,242
無形固定資産		
のれん	889,136	986,382
その他	12,967	13,018
無形固定資産合計	902,103	999,400
投資その他の資産		
投資有価証券	516,880	606,272
差入保証金	310,437	300,088
その他	197,443	217,309
貸倒引当金	△123,118	△133,946
投資その他の資産合計	901,643	989,723
固定資産合計	2,026,956	2,197,366
資産合計	2,794,033	3,213,464

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,868	62,475
1年内返済予定の長期借入金	60,000	60,000
未払金	139,435	164,198
未払費用	41,789	76,255
未払法人税等	14,142	78,229
ポイント引当金	924	876
その他	30,368	38,628
流動負債合計	387,529	480,663
固定負債		
長期借入金	65,000	110,000
受入保証金	208,840	211,040
その他	132,049	180,249
固定負債合計	405,889	501,289
負債合計	793,419	981,952
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,499,447	2,499,447
資本剰余金	1,469,459	1,469,459
利益剰余金	△1,681,574	△1,444,981
自己株式	△315,465	△315,465
株主資本合計	1,971,867	2,208,461
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△25,740	△22,887
評価・換算差額等合計	△25,740	△22,887
新株予約権	590	456
少数株主持分	53,897	45,481
純資産合計	2,000,614	2,231,511
負債純資産合計	2,794,033	3,213,464

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)
売上高	1,931,571
売上原価	1,338,458
売上総利益	593,113
販売費及び一般管理費	※1 693,280
営業損失(△)	△100,166
営業外収益	
受取利息	1,489
受取保険金	2,074
その他	5,884
営業外収益合計	9,448
営業外費用	
支払利息	2,561
為替差損	1,458
投資事業組合運用損	13,912
営業外費用合計	17,932
経常損失(△)	△108,650
特別損失	
投資有価証券売却損	25,749
店舗閉鎖損失	11,020
減損損失	10,711
その他	128
特別損失合計	47,610
税金等調整前四半期純損失(△)	△156,261
法人税、住民税及び事業税	43,009
法人税等調整額	15,200
法人税等合計	58,209
少数株主利益	22,123
四半期純損失(△)	△236,593

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)
売上高	614,771
売上原価	426,440
売上総利益	188,331
販売費及び一般管理費	※1 212,362
営業損失(△)	△24,031
営業外収益	
受取利息	479
その他	744
営業外収益合計	1,224
営業外費用	
支払利息	880
為替差損	343
投資事業組合運用損	6,432
営業外費用合計	7,656
経常損失(△)	△30,463
特別損失	
店舗閉鎖損失	7,414
減損損失	3,129
特別損失合計	10,543
税金等調整前四半期純損失(△)	△41,006
法人税、住民税及び事業税	23,930
法人税等調整額	△4,417
法人税等合計	19,512
少数株主利益	4,507
四半期純損失(△)	△65,026

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間
 (自 平成20年7月1日
 至 平成21年3月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△156,261
減価償却費	46,732
のれん償却額	104,135
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,596
減損損失	10,711
受取利息及び受取配当金	△1,489
支払利息	2,561
売上債権の増減額 (△は増加)	△50,579
たな卸資産の増減額 (△は増加)	56,964
仕入債務の増減額 (△は減少)	38,393
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	25,749
店舗閉鎖損失	11,020
投資事業組合運用損益 (△は益)	13,912
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	48
その他	△86,129
小計	18,365
利息及び配当金の受取額	1,489
利息の支払額	△2,561
法人税等の支払額	△104,544
営業活動によるキャッシュ・フロー	△87,250
投資活動によるキャッシュ・フロー	
子会社株式の取得による支出	△510
有形固定資産の取得による支出	△68,505
投資有価証券の売却による収入	25,805
貸付金の回収による収入	7,015
その他	7,329
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,865
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△45,000
子会社の自己株式の取得による支出	△20,000
その他	△32,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△97,500
現金及び現金同等物に係る換算差額	△487
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△214,103
現金及び現金同等物の期首残高	629,505
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 415,402

【継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況】

当第3四半期連結会計期間
(自 平成21年1月1日
至 平成21年3月31日)

当社グループは、平成18年6月期から前連結会計年度まで継続して営業損失を計上しており、当第3四半期連結累計期間においても個人消費の減退に伴い100,166千円の営業損失を計上することとなりました。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

しかしながら、当社グループは当該状況をいち早く解消し、収益体質の健全化及び資金繰りの安定化を実現するため、以下の改善策を実行してまいります。

1. 収益基盤の確立

(1) 美容室運営事業

既存直営店舗並びにFC店舗におきまして、新規顧客の獲得及びリピート率の向上を図る上で、新商品の開発・既存商品及びサービス品質の向上、人材育成、効率的な広告宣伝による顧客への訴求に努めてまいります。また、新たな施策として、商品の訴求にも注力し、ヘアケア製品の販路拡大や企画宣伝力の強化など、別アプローチからのブランド認知度の向上を図るとともに、引き続きFC店舗の新規出店など、収益基盤の強化に努めてまいります。

(2) ITアパレル事業

平成21年3月7日に開催された東京ガールズコレクションに出展したことで、ブランドの認知度は、より高まっております。これによる効果を活かして、卸売先の新規開拓の継続、低コストで反響の高い雑誌掲載等、費用対効果の徹底的な分析、マーケティングリサーチに基づく新商品の開発とともに収益基盤の拡大に努めてまいります。

2. コスト削減

本社コスト及び上記2事業につきましては、定期的に売上原価、人件費及び物流費等の販売費及び一般管理費を見直すことにより、営業費用の抑制を図ってまいります。

3. 連結キャッシュ・フローの改善

(1) 連結納税制度の適用

収益体質の大規模な改善を図るため、平成21年5月7日に代表取締役社長青山洋一から200,000千円の融資を一時的に受けました。これにより、連結子会社である株式会社エム・エイチ・グループの株式を、少数株主から取得し完全子会社化することで配当金が当社グループ内に留保されることとなります。加えて、次期連結会計年度より連結納税制度を適用することにより当社グループ外への資金流出が軽減される予定です。

(2) キャッシュポジション重視の風土を構築

個人消費の減退につきましては、一層厳しさを増すと予想されます。こうした経営環境に対応するため、キャッシュポジションを重視するよう、経営陣が執行に近い立場で先陣をきり、全従業員が一丸となって乗り越える意識を高めてまいります。

このような取組みを確実に実行していくことで、継続企業の前提に関する疑義は解消されるものと判断しております。

四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)
1 会計処理基準に関する事項の変更	<p>重要な資産の評価基準及び評価方法の変更</p> <p>たな卸資産</p> <p>通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として月次総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として月次総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。これによる営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。</p>

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)
1 たな卸資産の評価方法	<p>たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)	
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
貸倒引当金繰入額	2,364千円
給与・手当	101,649
地代家賃	98,398
のれん償却額	104,135
役員報酬	83,318
支払手数料	37,632
減価償却費	22,066

当第3四半期連結会計期間
(自 平成21年1月1日
至 平成21年3月31日)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は
次のとおりであります。

貸倒引当金繰入額	2,064千円
給与・手当	32,877
地代家賃	31,264
のれん償却額	34,613
役員報酬	24,776
支払手数料	8,355
減価償却費	7,361

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年7月1日
至 平成21年3月31日)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸
借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(平成21年3月31日現在)

現金及び預金勘定	415,402千円
現金及び現金同等物	415,402

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年3月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 133,064株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 19,743株

3. 新株予約権に関する事項

ストック・オプションとしての新株予約権

新株予約権の四半期連結会計期間末残高 親会社 590千円

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

	美容室 運営事業 (千円)	I Tアパレル ブランド事業 (千円)	計(千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	448,829	165,942	614,771	—	614,771
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	448,829	165,942	614,771	—	614,771
営業利益又は営業損失(△)	10,783	16,547	27,330	(51,362)	△24,031

当第3四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成21年3月31日)

	美容室 運営事業 (千円)	I Tアパレル ブランド事業 (千円)	計(千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,425,262	506,309	1,931,571	—	1,931,571
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,425,262	506,309	1,931,571	—	1,931,571
営業利益又は営業損失(△)	45,690	23,558	69,249	(169,416)	△100,166

(注) 1. 事業の区分の方法

事業の区分は、売上集計区分をベースに、事業の種類・性質の類似性を勘案して区分しております。

2. 事業の内容

美容室運営事業：美容室の運営・オリジナル商品の開発及び販売事業等

I Tアパレルブランド事業：アパレルブランドのショップ運営及びインターネット販売

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)及び当第3四半期連結累計期間
(自平成20年7月1日至平成21年3月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)及び当第3四半期連結累計期間
(自平成20年7月1日至平成21年3月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりますが、当第3四半期連結会計期間におけるリース取引残高は前連結会計年度末に比べて著しい変動はありません。

(有価証券関係)

前連結会計年度末に比べ著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

1. スtock・オプションに係る当第3四半期連結会計期間における費用計上額及び科目名
販売費及び一般管理費 23千円
2. 当第3四半期連結会計期間に付与したストック・オプションの内容
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日)	前連結会計年度末 (平成20年6月30日)
1株当たり純資産額 17,173円 58銭	1株当たり純資産額 19,286円57銭

2. 1株当たり四半期純損失金額等

当第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)
1株当たり四半期純損失金額 2,087円 81銭	1株当たり四半期純損失金額 573円 82銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)
四半期純損失(千円)	236,593	65,026
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(千円)	236,593	65,026
期中平均株式数(株)	113,321	113,321
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

当第3四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成21年3月31日)

借入の実行について

平成21年4月24日開催の当社取締役会の決議に基づき、以下のとおり資金の借入を実行いたしました。

借入実行日	平成21年5月7日
資金使途	株式会社エム・エイチ・グループの少数株主持分の取得
借入先	当社代表取締役社長 青山洋一
借入額	200,000千円
借入利率	2.1%
借入期間	平成21年5月～平成24年8月
担保及び保証	無担保、無保証

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年5月13日

株式会社ビーアイジーグループ

取締役会御中

監査法人 トーマツ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 世良敏昭 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中原晃生 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビーアイジーグループの平成20年7月1日から平成21年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビーアイジーグループ及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

1. 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況に記載のとおり、会社は平成18年6月期以降継続的な営業損失を計上しており、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在している。当該状況への対応等は当該注記に記載されている。四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映していない。
2. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成21年5月7日に資金の借入を実行した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。